

## 2013年2月6日ソロモン地震津波の規模 Magnitude of the Solomon Tsunami of February 6, 2013

羽鳥 徳太郎<sup>1\*</sup>  
HATORI, Tokutaro<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> なし

<sup>1</sup> nome

2013年2月6日01時12分(UTC)に、南太平洋のソロモンとニューヘブリデスの2海溝が接する屈折域で大地震が発生した(10.738S,165.138E, M8.0,USGS)。津波が太平洋全域で観測され、震源に近いネンドー島(サンタクルーズ島)で死者10人、流失・全壊家屋590の被害を出した。余震分布によれば、津波波源域は東西に長さ250km、幅120kmと推定される。本稿では検潮記録(WC/ATWC,NOAA,気象庁)をもとに、津波の規模や太平洋域の振幅偏差を調べ、周辺域で発生した津波と比較検討する。

震央距離と片振幅値の関係図によれば、津波マグニチュードは $m = 2$ と判定され、地震規模と比べて標準的である。各地の片振幅値は、震源南方のニューカレドニアと付近の島々で40-49cmが目だって大きい。震源で、東西方向の断層が大きく変動した、と考えられる。各地の最大波の片振幅値は、日本では6-40cm(八丈島で突出)。ハワイ10-18cm、米国西岸7-20cm。南米沿岸が比較的に大きく、ガラパゴス・コキンボでは17-19cmであった。波高分布のパターンは、過去のソロモン・バヌアツ津波と共通している。

キーワード: ソロモン地震, 津波規模, 津波源, 2013年2月6日, 振幅偏差

Keywords: Solomon Tsunami, Tsunami magnitude, February 6, 2013, Tsunami source, amplitude deviation